

お知らせ

記者発表資料	令和8年4月23日
配布日時	14:00

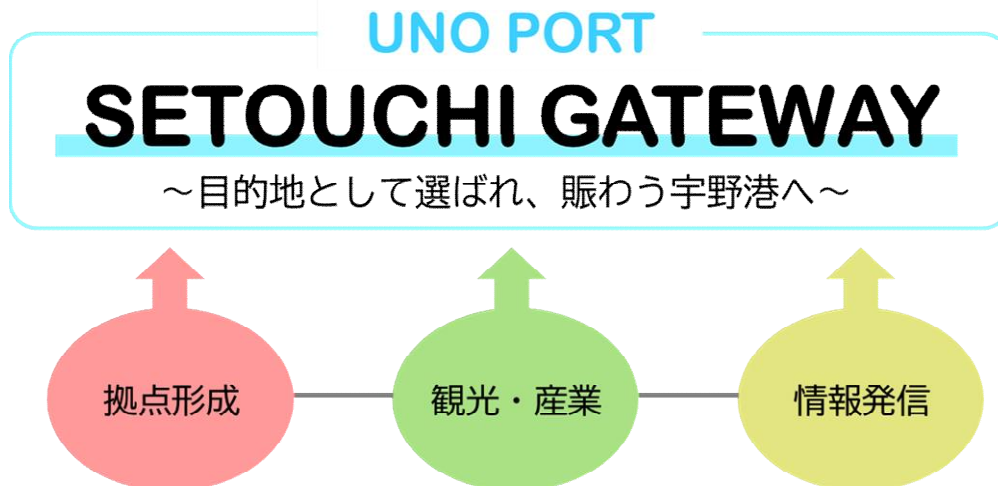
【同時発表先】

岡山県政記者クラブ、玉野記者クラブ

目的地として選ばれ、賑わう宇野港へ！ ～宇野港宇野地区中長期ビジョンをとりまとめ～

宇野港宇野地区の港湾機能の向上・にぎわい空間の創出に向けた方策等を検討し、「宇野港宇野地区中長期ビジョン」としてとりまとめるため、令和7年3月に有識者、関係団体・企業及び行政機関からなる検討会を設置し、議論を進めてまいりました。

この度、宇野港宇野地区中長期ビジョンをとりまとめましたので公表します。



○宇野港宇野地区中長期ビジョンでは、宇野港宇野地区の将来像を実現するため、「拠点形成」、「観光・産業」、「情報発信」の3つの基本戦略を立てるとともに、今後の具体的な取組を整理しております。

○今後、宇野港宇野地区中長期ビジョンを踏まえた取組が着実に推進されることで、宇野港が目的地として選ばれ、賑わう港へと発展していくことが期待されます。

- (検討会の開催状況)
- ・第1回検討会：令和7年 3月19日
 - ・第2回検討会：令和7年11月 5日
 - ・第3回検討会：令和8年 1月27日
 - ・第4回検討会：令和8年 3月17日

(※検討会開催概要は以下のHPに掲載しております。)

(中国地方整備局 港湾空港部ホームページ <https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/minato-seibi/vision-meeting-uno.html>)

【問い合わせ先】

中国地方整備局 港湾空港部 TEL:082-511-3905 (直通) (平日・昼間)

港湾計画課 まつおか みずた
松岡、水田

— UNO PORT —

SETOUCHI GATEWAY

～目的地として選ばれ、賑わう宇野港へ～

宇野港宇野地区中長期ビジョン



2026年（令和8年）4月

宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会

UNO PORT SETOUCHI GATEWAY

～目的地として選ばれ、賑わう宇野港へ～

★宇野港宇野地区中長期ビジョンにおける宇野港宇野地区の将来像

将来像には、宇野港宇野地区が、瀬戸内のゲートウェイとして人々が集い、やすらぎを得て日々の疲れを癒やす場所であるとともに、新たな旅や活動の出発点(starting point)となることへの想いを込めている。

1. はじめに

宇野港は、瀬戸内海の中央部に位置し、周囲を山と島とに囲まれる天然の良港である。昭和5年に岡山県唯一の開港指定を受けたほか、過去には本州と四国を結ぶ宇高連絡船が就航し海上交通の要衝として発展してきた。宇野港宇野地区では、平成18年に大型旅客船ふ頭が供用され、クルーズ船が寄港しているほか、瀬戸内海の島しょ部と宇野港を結ぶ定期船が就航している。

近年では、瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興のため、岡山県玉野市において『瀬戸内産業芸術祭「S・A・I」～Setouchi Art & Industry～』の構想が立ち上げられたところであり、宇野港周辺においてもオープンファクトリーをはじめとする各種取組が進められている。また、平成3年に港湾計画が改訂されて以降、新たな企業立地が進んでいる。

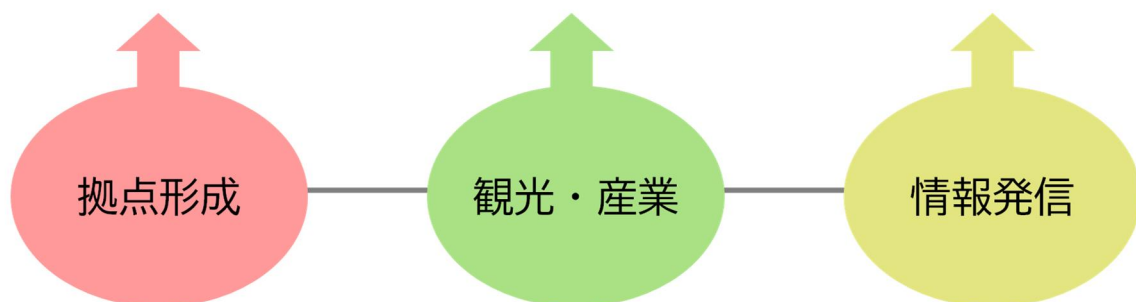
このように、宇野港をとりまく環境が変化してきていることから、宇野港宇野地区のあり方を関係者間で議論し、まとめていく必要がある。

そこで、有識者、関係団体・企業及び行政機関からなる「宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会」を設置し、宇野港宇野地区の港湾機能の向上・賑わい空間の創出に向けた方策などを検討し、「宇野港宇野地区中長期ビジョン」としてとりまとめた。

2. 将来像・基本戦略・具体的な取組

UNO PORT SETOUCHI GATEWAY

～目的地として選ばれ、賑わう宇野港へ～



本検討会の議論を踏まえ、宇野港宇野地区の将来像を実現するため、「拠点形成」、「観光・産業」、「情報発信」の3つの基本戦略を立てるとともに、以下のとおり、今後の具体的な取組を整理した(注)。

(注)今後の取組状況により修正・更新がなされていくものである。

基本戦略	具体的な取組		
	1年目	2年目	3年目以降
<p>《拠点形成》 海上・陸上交通結節点を活かした滞在型観光拠点、地元住民も集う空間の形成</p> <p>・目的地として選択されるための拠点形成、機能強化、持続可能な開発</p>	<p>●やすらぎの空間形成（Walkable Area）</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客の宇野港宇野地区での滞在を促す施策の検討 地元住民も利用しやすい親しみの持てる交流空間のあり方の検討 宇野港宇野地区における港湾機能を考慮したゾーニングの検討 	<p>●宿泊や商業施設の拡充（ホテル誘致や空き家を活用した民泊、飲食店など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊需要や商業需要の予測及び施設誘致するための方策の検討 ホテル、旅館、空き家を活用した民泊可能施設などの配置検討 	<p>●海上・陸上交通の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇野港宇野地区のフェリーや小型船の乗り場などの港湾施設の配置検討 地元住民にも配慮した交通結節点としての機能強化を図る施策の検討

(1)《拠点形成》

海上・陸上交通結節点を活かした滞在型観光拠点、地元住民も集う空間の形成

居心地の良いやすらぎの空間形成に向け、秩序ある港湾空間形成を図りつつ、宿泊施設・商業施設の拡充、海上・陸上交通の充実を通じて、目的地として選択されるための拠点形成、機能強化、持続可能な開発を行う。

《取組》

➤やすらぎの空間形成（Walkable Area）

- 観光客の宇野港宇野地区での滞在を促す施策、また、人々が歩きやすく快適に回遊できるようにするとともに地元住民も利用しやすい親しみの持てる交流空間のあり方を検討する。
- 宇野港宇野地区が有する防災機能に配慮しつつ、宇野港宇野地区の港湾機能を考慮したゾーニングを検討する。

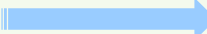
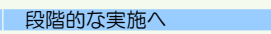
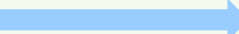
➤宿泊や商業施設の拡充（ホテル誘致や空き家を活用した民泊、飲食店など）

- 宇野港宇野地区周辺において、今後の宿泊需要や商業需要の予測を行い、地域の魅力を一層高める施設を誘致するための方策を検討する。
- ホテル、旅館のほか、空き家を活用した民泊可能施設などについて、最適な配置を検討する。

➤海上・陸上交通の充実

- 宇野港宇野地区のフェリーや小型船の乗り場がさらに利用しやすくなるよう、動線の明確化や船舶係留施設の配置など、利用者にとって快適な港づくりを検討する。
- 岡山・倉敷方面などとのアクセス向上や、駐車場の利便性向上、駅から港までの動線改善など、観光客はもちろん、地元住民にも配慮した交通結節点としての機能強化を図る施策を検討する。

《期待される効果》 来訪者の滞在時間増加、満足度向上による地域活性化

基本戦略	具体的な取組		
	1年目	2年目	3年目以降
《観光・産業》 観光地間連携による周遊ルートの形成・サービスの充実 ・宇野港宇野地区拠点の観光プラン（自然、歴史、芸術）の強化、産業の調和	 ●キラーコンテンツの創出・磨き上げ（瀬戸内産業芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、クルーズ船など） ・観光コンテンツの需要や動向、既存コンテンツの整理、分析 ・地域の特色を活かしたニッチな観光コンテンツを深掘りするなどの検討	 段階的な実施へ ●海上交通を使った観光プランの充実（定期船、海上タクシーなど） ・海上交通を活用した、自然、歴史、芸術などを体感できる島しょ部などの観光地と連携した観光プランの検討・構築	 ●陸上交通を使った観光プランの充実（JR、路線バス、観光バスなど） ・陸上交通を活用した、自然、歴史、芸術などを楽しめる周辺地域と連携した観光プランの検討・構築

(2)《観光・産業》

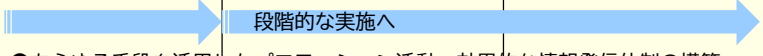
観光地間連携による周遊ルートの形成・サービスの充実

瀬戸内産業芸術祭、瀬戸内国際芸術祭などのキラーコンテンツの創出・磨き上げ、海上交通・陸上交通を使った観光プランの充実により、地場産業と調和を図りながら宇野港宇野地区拠点の観光プラン(自然、歴史、芸術)を強化する。

《取組》

- キラーコンテンツの創出・磨き上げ(瀬戸内産業芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、クルーズ船など)
 - ・目的地としての魅力をさらに高めるため、観光コンテンツの需要や動向を把握し、既存の観光コンテンツの整理・分析を行う。
 - ・観光客の多様なニーズに応える新たな価値創出を目指し、地場産業や地元住民と協働し、地域の特色を活かしたニッチで魅力的な観光コンテンツの深掘りやクルーズ船を活用した新たなにぎわい創出などの検討を行う。
- 海上交通を使った観光プランの充実(定期船、海上タクシーなど)
 - ・海上交通を活用し、自然、歴史、芸術などを体感できる島しょ部(直島、豊島、小豆島)などとの間で、相乗効果を生み出す新たな観光プランの検討・構築を行う(島しょ部側でのオーバーツーリズム緩和+宇野港周辺での観光客増加)。
- 陸上交通を使った観光プランの充実(JR、路線バス、観光バスなど)
 - ・JRやバスなどの陸上交通を活用し、自然、歴史、芸術などを楽しめる日帰り圏内の観光地との連携を強化した観光プランの検討・構築を行う。

《期待される効果》 さらなる集客力の向上

基本戦略	具体的な取組		
	1年目	2年目	3年目以降
《情報発信》 戦略的プロモーションの実施 ・プロモーション活動、情報発信力の強化	 <ul style="list-style-type: none"> ●あらゆる手段を活用したプロモーション活動、効果的な情報発信体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者視点に立ったマーケティング戦略及びあらゆる手段を活用したプロモーション活動の検討 ・地域一体となった効果的な情報発信体制のあり方の検討 		

(3)《情報発信》

戦略的プロモーションの実施

宇野港の認知度及びブランド力の一層の向上を目指し、あらゆる手段を活用した戦略的なプロモーション活動の実施、効果的な情報発信体制の構築を通じ、情報発信力を強化する。

- 《取組》
- あらゆる手段を活用したプロモーション活動、効果的な情報発信体制の構築
 - ・宇野港の魅力を効果的に伝えるため、インバウンドを含めた観光客や地元若年層など利用者視点に立ったマーケティング戦略を検討し、あらゆる手段を活用したプロモーション活動を検討する。
 - ・情報の受け手の属性(観光客・地元住民、年齢など)に応じ、効果的な情報発信体制のあり方を地域一体となって検討する。

《期待される効果》 宇野港の認知度向上、宇野港の来訪者の増加

3. 具体的な取組の実現に向けて

具体的な取組の実現に向けては、行政のみならず、地元住民、地域団体、民間事業者などの関係者が主体的に参画し、多様な意見やアイデアを取り入れながら進める協働型の取組体制の構築が不可欠である。特に参画者が主体的に活動し、自らの活動の成果を実感できる場を提供するなど、持続的な活動につながる取組も重要である。

また、港湾管理者である岡山県と地元自治体である玉野市において、港湾計画、都市計画、観光振興計画などとの整合を図りつつ、国の助言・支援を得ながら段階的かつ計画的に取組を進めることが重要である。

玉野市では、始めに拠点形成に向けた検討体制を新たに立ち上げ、関係者との協議を重ねながら具体化を進めていく。その上で、観光・産業や情報発信に関する検討体制についても順次立ち上げ、拠点形成と連動した形で取組を広げていくこととしており、関係者において、本ビジョンを踏まえた取組が着実に推進されることで、宇野港が目的地として選ばれ、賑わう港へと発展していくことが期待される。

UNO PORT

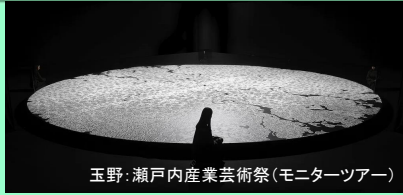
SETOUCHI GATEWAY

～目的地として選ばれ、賑わう宇野港へ～

《観光・産業》

観光地間連携による周遊ルートの形成・サービスの充実

キラコンテンツの創出・磨き上げ



玉野:瀬戸内産業芸術祭(モニターツアー)

海上交通を使った観光プランの充実



直島:海の駅 豊島

陸上交通を使った観光プランの充実



玉野:みやま公園 玉野:渋川マリン水族館

《情報発信》

戦略的プロモーションの実施



瀬戸内海の道に「みませんか。」



旅人が暮らしたくなる街

玉野PR動画

《拠点形成》

海上・陸上交通結節点を活かした滞在型観光拠点、地元住民も集う空間の形成

やすらぎの空間形成



宇野港 宇野港

宿泊や商業施設の拡充



UNOHOTEL UNOHOTEL

海上・陸上交通の充実



シーバス フェリー・旅客船



岡山・倉敷

玉野(王子が岳・渋川)



玉野:王子が岳



倉敷:美観地区 岡山:岡山城

陸上交通

海上交通

直島・豊島・小豆島



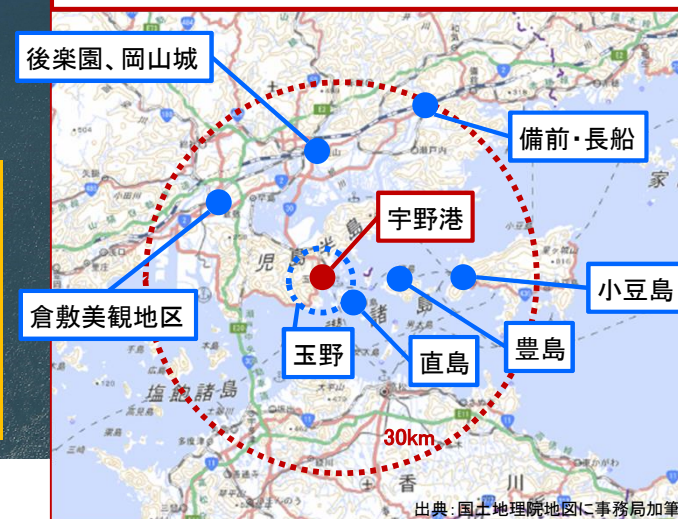
直島:宮浦港

クルーズ船



クルーズ船寄港

観光地間連携のエリアイメージ図



出典:国土地理院地図に事務局加筆

宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会 委員名簿

【有識者】

橋本 成仁 岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域教授
石崎 晶子 (一社)日本プロジェクト産業協議会
国土・未来プロジェクト研究会瀬戸内WG 委員

【関係団体・企業】

玉置 明日夫 宇野港航路誘致推進協議会
石田 翔馬 宇野港港運協会
宮原 一郎 宇野港振興協会
堀川 文裕 宇野港フェリー協議会
伊達 元英 宇野港魅力向上委員会(玉野商工会議所 副会頭)
山本 和子 うの港13
平本 清志 公益社団法人 岡山県バス協会
坂井 心 公益社団法人 玉野市観光協会
加藤 正枝 玉野商工会議所 女性会
竹内 大器 前玉野商工会議所 観光交通委員会
古山 雄一 玉野商工会議所
栃折 太介 西日本旅客鉄道株式会社

【行政機関】

玉野市
岡山県
国土交通省 中国運輸局
国土交通省 中国地方整備局 宇野港湾事務所

【事務局】

国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部